



手術看護認定看護師

Perioperative Certified  
Nurse



# 手術看護認定看護師ってなに？

- 手術看護認定看護師は**手術看護のスペシャリスト**として日本看護協会に認定された看護師です。
- 認定看護師になるには、養成機関で所定の単位を修め、認定試験に合格する必要があります。
- 全国で**699**名、京都では**20**名の手術看護認定看護師が活躍しています。
- 京都大学医学部附属病院には**2**名の手術看護認定看護師がおり、手術室で手術看護の実践を行っています。

# 手術看護認定看護師の役割は？

- 手術侵襲を最小限にし、二次的合併症を予防するための安全管理（体温、体位管理、手術機材・機器の適切な管理等）
- 周手術期（術前・中・後）における継続看護の実践

日本看護協会 HPより

- 二次的合併症には、手術体位によって発生する褥瘡や、医療機器によって生じる皮膚障害、手術操作に関連した感染（手術部位感染：SSI）などがあります。
- 最近では、手術の前後と手術中を含めた一連の流れのなかで看護をとらえる「**周術期看護**」という考え方が主流です。

# 手術看護認定看護師としての目標

- 手術を受ける患者さんの「**代弁者**」であることをいつも考えるようにしています。全身麻酔を受けている意識のない患者さんでも、その方の身体的・精神的な訴えをくみ取り、思いに寄り添います。
- 「**手術創のほかに傷をつくらない**」ことを目指しています。褥瘡や医療機器関連圧迫創傷（MDRPU）など、手術に関連した皮膚障害をつくらない看護ケアを行っています。



# 活動の実際① 手術室褥瘡対策

- 手術では、術式に合わせた様々な体位をとる必要があります。また、体位をとるための器具も特殊です。手術のために適切な体位をとりつつも、患者さんの皮膚状態などを考慮してできる限り褥瘡が発生しないように工夫しています。
- MDRPUといわれる医療機器によって発生する皮膚障害は、多くの医療機器を使用する手術室での発生リスクが高まります。患者さんに合わせ、様々な予防策を行っています。
- 褥瘡やMDRPUを防ぐための具体的な手段を手術室のスタッフに周知し、ともに実践を行っています。

# 活動の実際② 手術室看護師の指導

- 認定看護師の役割のひとつである「指導」についての活動として、手術室看護師への教育的な関わりを行っています。
- 手術看護の質の向上を目指すため、定期的に手術室での学習会を開催しています。
- 学習会の内容は、インシデントに関連したものを中心に、手術室スタッフに必要なものを選んでいきます。



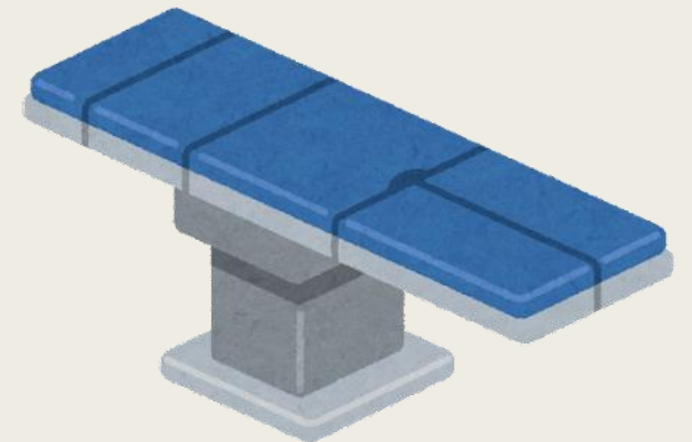
## 活動の実際③ コンサルテーション

- 日々の手術看護についての疑問や患者さんの個別性に合わせた対応の仕方など、手術室スタッフからの相談を受けて一緒に実践しています。
- 病棟からの依頼を受けて、手術看護についての知識の共有のために勉強会を行っています。



# 活動の実際④ 認定看護師チームの活動

- 院内の認定看護師と協力してチーム活動を行っています。
- ICUや病棟に所属する重症集中ケア認定看護師、皮膚排泄ケア認定看護師と「急性期認定看護師チーム」を組織して活動しています。
- 「周術期の褥瘡についての継続看護」「RRS (rapid response system) の導入」について、それぞれの専門性を活かして取り組んでいます。





## 活動の実際④ 院外での活動

- 「**近畿地区手術看護認定看護師会**」に所属し、地域の手術看護の質の向上のために活動しています。学会でのセミナーや、ウェブでのセミナーを開催しています。
- 看護雑誌に執筆を行い、よりよい手術看護について普及に努めています。

**よりよい周術期看護をめざしていきます！**